

---

# 初めてのプロポーズ（最終話）

ゆう

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

初めてのプロポーズ（最終話）

### 【コード】

N24180

### 【作者名】

ゆづ

### 【あらすじ】

時間は短いので良ければ読んで下さい。

それを聞いて、一瞬頭の中が真っ白になった…

「先生、それはどういう事ですか…？」

僕はその言葉の意味をすぐには理解できなかった。

「まだはつきりとは…どこまでの記憶がないのかも…」

と医者は答えると、僕に妻がいる病室を伝えた。

僕は戸惑いながら妻がいる部屋へと向かった。

部屋の前まで来ると、一呼吸おいてから僕はそつと扉を開けた。

妻は起きていた。予想外だった…、とつさにでた言葉が

「調子はどう？」 だった。

すると妻は、

「新しい先生ですか？こんな遅くまで大変ですね…お陰様で。」

そう発した妻に僕は何も言えず、部屋を後にした…。

妻の記憶からは僕の存在は消えていた…。

夜の病院の待合室は暗く、静かだった。

ベンチが見える。

僕はそこに腰を下ろすと、自分が今までにしてきた妻への裏切りを思い返した。

罰が当たった…

今までの妻との思い出が頭の中を埋めつくす…。

もっと大切にしてあげていれば…

しばらくすると、足音が聞こえた。杉山か…。

「奥様が事故に遭われた時に持っていたようなのですが…」  
と僕に何やら紙袋を手渡した。

僕はその袋を開けた。

誕生日ケ・キ…。

事故の衝撃だろう、その箱は無惨にも押し潰れ、中身が飛び出していた。その袋の隅には「雅紀へ」と書かれた手紙が入っていた。  
僕宛ての手紙だ。  
僕はそれを開いた。

雅紀へ

お誕生日おめでとう。

雅紀の好きなチョコケ・キ。

ちよつと大きいから二人で食べきれるか心配…

色々喧嘩もするかもしれないけど、これからも仲良くしていこうね。

貴方に出会えて本当に幸せです。

恵美子より

眼の中が熱い……  
泣いているのか……

そこからの行動はあまり覚えていない……  
ただ気づくと、僕は妻の病室にいた。

「……僕と……結……婚して頂けませんか……？」  
何を言っているの  
だろう……。  
身体全身が震えていた。

妻は何も言わなかった……  
ただ僕の顔をじっと見つめ静かにうなづいた。  
その頬に光るものが見えた。

妻にした初めてのプロポーズだった……。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2418o/>

---

初めてのプロポーズ（最終話）

2010年10月11日02時25分発行